

## 極多収のインド型水稻新品種「北陸 193 号」

我が国の水田をフル活用し、バイオエタノール、飼料、米粉用などの新規需要米の生産を本格化させる必要があります。こうした新規需要米に対応した極多収水稻品種を開発しました。

### ☆技術の概要

1. 「北陸 193 号」は、収量性の向上を目標として、韓国品種から育成したインド型多収系統「上 344」と中国のインド型多収品種「桂朝 2 号」の交配後代から育成された極多収品種です。
2. 出穂期は「日本晴」より 1 日程遅く、熟成期は 7 日程遅い育成地では“晩生の晩”に属する。耐倒伏性は“極強”で、収量性は「日本晴」より 2 割増収し、極多収です。2008 年に、新潟県下 8 農協管内の全栽培面積 301ha、総農家戸数 344 戸の規模で栽培実証試験を行った結果、最高事例は 1094 kg/10a であり、平均粗玄米収量は 781 kg/10a でした。
3. 「北陸 193 号」は種子休眠が強いため、種子の水分含量を 15%程度に調整後、60℃、乾燥条件で 4～7 日間の休眠打破処理を行います。

表 1 北陸 193 号の特性(育成地)

栽培条件	移植、基肥 6 kg/10a、穂肥 3 kg/10a	
調査年次	北陸 193 号と日本晴は 1998～2006 年	
品種名	北陸 193 号	(標準) 日本晴
草 型	極穂重型	偏穂数型
出穂期(月日)	8. 16	8. 15
稈長(cm)	80	83
穂数(本/m <sup>2</sup> )	236	398
脱粒性	やや難	難
耐倒伏性	極強	やや強
縞葉枯病耐病性	抵抗性	罹病性
粗玄米重(kg/10a)	780	663
同上一比率(%)	118	100
玄米千粒重(g)	22. 9	23. 3
玄米品質	5. 8	3. 4

表 2 現地実証圃における成績(JA にいがた南蒲)

年次	試験農家 戸数	作付面積 (ha)	粗玄米重 (kg/10a)
2006	3	0. 8	911
2007	30	26. 7	714
2008	91	96. 4	788

- 注) 1) JA にいがた南蒲(三条市)における成績  
 2) 粗玄米重は実収量(収穫袋数より算出)で農家の単純平均  
 3) 水分含量 15%に換算した  
 4) 2006 年は、標準、多肥、極多肥の平均。  
 基肥はいずれも N5. 6/10a、  
 穂肥は標準：N3. 0 kg/10a を 2 回、  
 多肥：N4. 0 kg/10a を 2 回、  
 極多肥：N4. 8 kg/10a を 2 回

注：玄米品質は 1 (上上) ～9 (下下) の 9 段階

### ☆活用面での留意点

1. 適期刈取り、メイチュウおよびイネツトムシの防除に努める。いもち病の発病はこれまで認められないが、新レース出現の可能性があるので、防除を励行します。
2. 育苗時の温度管理に留意し、湛水直播、寒冷地南部の遅植えや山間高冷地での栽培を避けます。
3. 多収を得るには一般食用品種よりも増肥する必要があります。
4. 詳細は中央農研・低コスト稲育種研究北陸サブチーム(TEL: 029-526-3239)へお問い合わせ下さい。  
(中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男)